



ReLive Journal



“りらいぶ” ジャーナル No.32

2019年 盛夏号 (7月22日発行)

< “りらいぶ” 憲章>

- 組織、肩書き、経歴にとらわれない自由な生き方
- 知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方
- 初心に帰って新しい自分を見出す生き方

私たちNPO法人リタイアメント情報センターはこのような生き方を“りらいぶ”と呼び、その生き方をサポートします

<目次>

1. クルージングは楽しい(楽しい人生を求めて) (R&I顧問・会員 渡島 八洲夫)
2. 私のメモアの紹介の終わりに会員の皆様へ伝えたい事;600年先の子孫達の世界? (会員 赤神 潔)

右の写真は、赤神ファミリー、
グラムマの誕生日での集合写真
ソファに座っている右端の方が
赤神会員、その左がグラムマの
赤神富美子夫人



3. 北康利氏の講演 「胆斗の人・太田垣士郎」を聴いて (木津谷 文吾)
4. 喜寿を振り返って【第一部】 (会員 伊丹 淳一)
5. 関西支部からのお知らせ (関西支部長 阿賀 敏雄)
6. 東京地区行事のお知らせ (事務局)
7. 令和の時代に臨むこと (会員 ヤスコ Wild(杉山 泰子))
8. 大盛会だったドールハウス展 佐藤幸子さんの名作ズラリ (R&I顧問・会員 中野 寛成)
9. 馬の補正で完走しました (会員 鳥居 雄司)
10. 関西支部 行事関連写真&行事チラシ



1. クルージングは楽しい (楽しい人生を求めて)

元キャメロン会 会長
R&I 顧問・会員 渡島八洲夫



2015年クインエリザベス号にて
クリスマスディナーを楽しむ渡島様ご夫妻
&寄港したクインエリザベス号（9万トン）

定年を迎えた2000年頃から数年間の海外旅行は旅行社の企画したバス旅行かレンタカーによる独自に企画した旅行を楽しんでいた。

宿泊地は精々多くて連泊が数日、朝はかなり早めに起きて荷物を纏め、次の目的地に向かわなければならぬせわしさが苦痛であった。

2005年最初のクルージングに参加してすっかりクルージングのとりことなった。

大型船の建造も増え価格も手ごろなクルーズが企画されてきた。又最近では日本発着クルーズが増え、航空機で乗船地に行く必要もなく高齢者にはありがたい。航空機代が無い分価格は安くなる。一番安い価格だと10日で2人同室で1人あたり10万円前後のコースも見受けるようになった。日本の都市を幾つか周遊するが必ず台湾、韓国、ロシアの都市が1つ含まれる。

1. クルージングの良さ

- ① 時間に縛られずに自由で、気分もゆっくりする。
- ② 荷物は開けたままで毎日まとめなくてよい。
- ③ 食事の場所、時間の選択幅が広い。
- ④ 次の寄港地へは通常夜間航海するので移動時間が苦にならない。
- ⑤ 楽しい色々な企画が船主催であり、自分で参加の可否を決めればよい。
- ⑥ 寄港地での観光は選択できるので興味あるものだけに参加すればよい。

2. 船会社の格付け

クルーズを運航している会社は3つのグループに格付けされている。ランクは上から①②③。

① ラグジュアリー（格式は一番高い）

概して小型船（10万トン以下）が多く、乗組員数が乗客数に比して多い。優雅なエンターテインメントも豊富。新婚旅行、記念旅行（例えば金婚記念）、夫婦だけの旅行に向いている。

1室2名利用で、1泊1人当たり5万円見当。

*クリスタル
*キュナード
*オーシャニア
*郵船

② プレミアム

概して大型船（10万トン前後）が多い。乗組員数が乗客に比べ中程度。エンターテインメントは多い。友人等グループで参加するのも良い。

1室2名利用で、1泊1人当たり2~3万円見当。

*プリンセス
*セリブリティ
*ポーランド アメリカ



③ カジュアル

概して大型船（15万トン以上）が多い。乗組員数が乗客数に比べて少ない。エンターテインメントは多い。子・孫との家族旅行に良い。コスタはある年齢以下の子供は無料制度や子供を船内で預かる制度もある。世界最大のハーモニーオブザシズ22万トン級ではビル10階を15秒で降りるスライダーも活動的なスポーツ施設も備えられている。
1室2名利用で1泊1人当たり1万円見当
*コスタ
*ロイヤル カリビアン
*MSC

3. 居住区の種類と価格

クルーズ会社によって呼び方は違うが、ダイヤモンド・プリンセスを例にとれば最高の居住区（グランド・スイート）から窓のない内側の部屋まで15級に分かれている。

グランド・スイートの価格は最安内側の部屋の4～5倍もある。

(例)秋の東南アジア大航海 16日価格比較(万円)

グランド スイート	(138)
ベントハウス スイート	(118)
ヴィスタ スイート	(106)
ジュニア スイート	(65)
海側/バレコニー	(46)
内側(窓無し)	(30)

4. クルージングの選択

地中海、エーゲ海、東南アジア等の目的を決め予算、日程等をもとに旅行社主催のツアーを比較検討する。直接クルーズ会社に申し込むこともできるが、色々な点で初心者にはお勧めできない。ご参考までに過去に参加したクルーズを紹介しよう。

(1) マーキュリー号（7万トン）による 「北米西海岸クルーズ」

*セレブリティ社（プレミアム）
*2006年10月13日～23日
*寄港地
シアトル（米国）→ピクトリア（カナダ）→
アストリア（米国）→サンフランシスコ
(米国)→カタリナ諸島（米国）→

エンセナダ（メキシコ）

初めてのクルーズだったので友人を誘わず我々夫婦のみで参加した。日本人に良く知られている活気あふれる街シアトルでは球場と市場を観光した。素朴な街ピクトリア。サンフランシスコではゴールデンゲート近くのシーフードレストランでは蟹を堪能した。

(2) 大型船ポイジャー・オブ・ザ・シーズ号

(14万トン)による「地中海クルーズ」
*ロイヤル キャリブーン社（カジュアル）
*2006年11月3日～12日
*寄港地：
バルセロナ（スペイン）→マルセイユ（仏）
→ニース（仏）→フレンツェ（伊）→ローマ（伊）→ナポリ（伊）

5組の友人夫妻と参加した。内海の船は揺れることもなく寄港地を巡った。特にポンペ観光では紀元前79年、一瞬にして灰にとざされたが、当時のパン屋、馬を繋いだポール等の生活がそのままに残っており当時を偲んだ。フレンツェ観光、ニースの海拔427mの岩山に張り付いた町などには感動した。大型船なので今はやりのロッククライミングも楽しんだ。

(3) 大型船コスタ フォチュン号

(10.3万トン)による「エーゲ海クルーズ」
*コスタ クルーズ社（カジュアル）
*2009年4月12日～21日
*寄港地：
ベニス（伊）→バーリー（伊）→サントリニ島（ギリシャ）→ミコノス島（ギリシャ）→ロードス島（ギリシャ）→カタコロン（ギリシャ）→ドプロブニク（クロアチア）

3組の友人夫妻と参加した。バーリーからバスで移動したベロベロベツロの石を積み上げた家は、幻想的な景色だった。昔税金の査定の日には壊しやすい作りにして当日は壊してしまう構造になっている。エーゲ海は真っ青な海と天、島々の白い家々の醸しだす強烈なコントラストは美しい。カタコロンは古代オリンピックが行われた広場遺跡が残っており、現在でも聖火の点灯が行われている。今でも残っている短距離走のスタートにたってみた。



(4) 小型船コスタ ロマンチカ (6.7万トン)
による「アジア クルーズ」

*コスタ クルーズ社 (カジュアル)

*2010年10月24日～11月6日

*寄港地

那覇 (日本) → 基隆 (台湾) → 香港 →
ハロイン (ベトナム) → ダナン (ベトナム) →
ホーチミン (ベトナム) → シンガポール



コスタ ロマンチカ号の雄姿

3夫婦参加した。那覇から基隆まで、特に夜間には颱風に見舞われ船は大揺れした。台北では故宮の秘蔵品を永い列で待って鑑賞した。ハロイン湾クルーズ、ダナンでは破壊されたベトナム最後の宮殿を鑑賞した。メコンデルタ観光も楽しんだ。シンガポールでは輪船タクに乗って観光した。格式あるラッセルホテルでは買物だけをした。

(5) ダイヤモンド プリンセス (11万トン)
による「アラスカ クルーズ」

*プリンセス クルーズ社 (プレミアム)

*2011年5月31日～6月13日

*寄港地

乗船前にフェアバンクスに4日間滞在した。
ウィッティア (米) → スキャングウエイ (米)
→ ジュノー (米) → ケチカン (米) →
バンクーバー (加)

フェアバンクス (デリナ国立公園) では船会社所有のロッジに宿泊。大自然の中に建つマッキンレーを仰ぎ見、静かなロッジ生活を楽しんだ。バスで自然探査ツアーに出かけ野生動物を鑑賞した。マウント・マッキンレーにも宿泊。駅舎のない原っぱからおかれた箱からアラスカ鉄道に乗車、車窓からの景色を眺めながら乗船地ウィッティアに向った。こ

こで乗船して、グレーシャー・ベイをクルーズ、大きな氷河が解け落ちるのを見るため停船した。自然保護の為此の地区に入る船が制限されているとの事。スキャングウエイではゴールドラッシュ時建設されたホワイトパス・ユーコン鉄道に乗車、沿線の美しい景色を堪能した。ジュノーではホエールウォッチングでクジラを追いかけた。

(6) クイーンエリザベス号 (9万トン)

「クリスマスとニューイヤーカナリア諸島巡り」

*キュナード社 (グラジュアリー)

*2015年12月21日～2016年1月7日

*寄港地

サザンプトン (英) → 「クリスマス」 →
ランザローテ (西班牙) → ラ・パルマ (西) →
グランカナリア島 (西) → テネリフェ島 (西)
→ マテイラ (葡萄牙) → (新年) → ガテス (葡)
→ リスボン (西) → サザンプトン (英)

格式は最高のランクであり是非乗船したいと切望していたが「金婚記念」に希望がかなった。ホーマルディにはほぼ全員タキシードを着用であったが、小生は持っておらず紺系の背広で済ませた。家内は若い時の着物に帯、何時も帯に関心を持つ外人が多く値段を聞いてくるので「100万円はする」と答えるとビックリされる。

サザンプトンを出港、大西洋を航海した初日は船が揺れ船酔いに悩まされる人も多かったが、幸い船酔いもなく大揺れの時もジムに通ったが、大きく船が上下する度に加わる負荷が軽くなったり重かったり経験した。小生の部屋は船底の窓もない一番安い部屋をとった。部屋にいるのは寝る時だけなので何時も同じ考え方で申し込む。部屋によって食堂も区分されているが気にしない。船内には食堂が7ヶ所あり、サービスを受けるダイニング、特別な料理を出すダイニング、ビュッフェスタイルで自由に好むものを取る等バラエティーに富んでいる。各階には無料の自動洗濯機が置かれており便利だ。乗客は英国人が1622人でダントツ、2位は95名の日本人であった。アジアは中国人、韓国人、はおらずフィリピンの2名だけだった。各種ゲーム大会、教室が開催されている。小生はコントラクトブリッジ会に参加、航海日だけなの6日間、午後開催された。毎回40名を超える参加者があった。ペアでプレーする



のでパートナーが必要となる。初日から英国夫人と組んだが幸い優勝、其の後もプレー、好成績が続き総合優勝した、パートナーの英国夫人は大喜だった。

クリスマスの行事は多く、劇場ではクリスマス特別ショー、仮面ダンスパーティー、クリスマスキャロルを歌おう、カトリックミサ等々、年内まで続いた。年末年始は31日の20時からシャンパンタワーでシャンパンを船長と注ぐ。23時頃から港に停泊してくる船が集まって、汽笛を鳴らす、対岸では一斉に花火を揚げるだけで終わり、元旦はガイドさんが日本から持参した日本酒、黒豆で乾杯、蕎麦を食した。

各島には上陸、火山の見学、天文台、ワイナリーの試飲、特産物、博物館等を見学。トボガン滑降を体験（荷物を運ぶソリに2人が乗り2人の男がブレーキを操作しながら10分間滑降、スピードも出てスリル満点だった）。

(7) アマデウス・シルバーII号で行く 「煌くドナウ川クリスマス・クルーズ」

*ウフトナー クルーズ社

*2017年12月21日～29日

*寄港地

バッサウ（独）→リンツ（独）→エンマースドルフ（オーストリア）→デュルンシュタイン（オーストリア）→ワイン（オーストリア）→プラチスラヴァ（スロヴァキア）→リンツ



アマデウス シルバーII号と船から見た風景

小さな船（2,700トン、全長135m、全幅11.4m、乗客定員168名、乗組員46名）での

川クルーズである。夕食時のドレスコードはインフォーマル、チップ旅行代に含まれており、夕食時の飲み物は無料）。船窓からの景色は美しい。乗船前にミュンヘン観光。リンツ、ワインでのクリスマス市見物。デュルンシュタイン教会ミサ。ワインでのクリスマスディナーとコンサート。プラチスラヴァ観光を楽しむ。

(8) ダイヤモンド プリンセス号(11.6トン) による「北海道周遊とサハリンクルーズ」

*プリンセス クルーズ社

*2018年9月25日～10月3日

*寄港地

横浜→釧路→コルサコフ→小樽→函館→横浜

航空機でクルーズ乗船港まで行く必要もなく便利である。日本発着のクーズは多くの会社が運行するようになり疲れも少なく且つ安価でありこれで2回目乗船した。コースもバラエティーに富んでいる。観光は船主催の観光より、安価で時間も節約できるタクシーを利用した。船主催のイベントも多くとても10%も参加できなかった。

釧路では湿原をタクシーで観光後、勝手ドン（酢飯を購入して魚屋で鮮魚や魚卵等を乗せてもらう、思ったほど安価で憚った）を食した。コルサコフではビザの関係で船会社のツアーに乗るも、観光としては見るべきものがなかった。小樽では運河や倉庫街、やニシンで賑わった時代の銀行、商社の支店がのこっており当時を偲んだ。函館は和と洋が入り混じった魅力的な街だ。

嬉しいことに船の最上階に大きな、綺麗な日本風風呂「泉の湯」があり部屋にはバスタブがないので利用した、90分で\$15と有料ではあるが湯も豊富で、湯につかりながら窓越しに海を眺めることが出来る。

帰途台風に見舞われそうになったが上手く回避した。

(9) 今後の予定

加齢に伴い長距離のフライトがきつく成ってきた。今後は日本発着クーズを主体に参加したい。2020年春にはクイーンエリザベス号が日本にやってきて、横浜発着の4つのコースが企画されており、5月からのクルーズに予約した。

以上



2. 私のメモアの紹介の終わりに

会員の皆様へ伝えたい事；

600年先の子孫達の世界？

会員 赤神 潔

< はじめに >

1972年、コンピューターもVIDEOも電子レンジもなかった頃、29才の私が、英語の分からない29才の妻富美子と5歳と2歳の幼児をつれて、周りに東洋人の一人もいない米国ニュージャージー州サセックス郡のスペース・ファームに1年勤務し、フォルクスワーゲンを運転して、カナダBC州オルダグローヴの白人社会へやって来て、赤神ミンク・ランチ Ltd.を開設、家族ともども全力でもがきつづけて来た英文小史の一部を5回に亘って“りらいぶジャーナル”に紹介していただきました。

そのメモアは元々夫婦共日本語が母国語の、日本国籍を失いたく無いのでカナダ国への永住権のみの身分弱小な新移住家族が、米国・カナダ国の既得権益保持者・エンバ・ミンク飼育組合（当時、我々以外白人のみ）のなかに迷い込んで9年後、シアトル・ファー・イクス・チェンジ社（毛皮オークション）で、その年の北米（世界）市場最高落札価格記録“\$98.00/pelt のバンドル(224枚)”を出す生産者になったが、組合から説明もなく完全無視され、その年のエンバ・ベスト・バンドル賞（アメリカナンバーワン）は“\$96.00/pelt の白人生産者のバンドル”となり、以後数年にわたるオークション会社内での既得権益を守る為の（我々のベスト・バンドルは、予めオークションの開始直前に我々の知らないうちに勝手に売られ処分され、我々のオークションには別のバンドルが秘密裏に用意された等の）策略に巻き込まれ、

「出る杭は打たれる」経緯を耐えた本人が、何とか日本語版「北米への道」と「In Pursuit of Excellence・(卓越を追い求めて)」英語版を記し、出版社で原稿を紛失されたりして、出版社が見つからず英語版は18年かけて自分で印刷・製本・出版したカナダでも希少で貴重な「現代北米・家族移民（商業）苦闘史」です。なお“りらいぶジャーナル”紙面を割いていただいた当R&I会員の皆様方やR&I事務局の国境を超えた、寛容で包容力の

ある特別なお取り扱いには心から感謝し、お礼を申し上げます。

現在は、バンクーバー総合病院と市役所に挟まれたマンションの17階のスイートで、皆様と同じように夫婦揃って第二の人生を送っております。

以前、爽やかなインディアン・サマー（小春？）日和に、妻・富美子と永住権習得の恩人・ウィルソン夫妻をグリーン・レークの西岸に訪ねると、ジョージがCBC放送を定年退職すると同時に、自宅兼マザー・グース保育園を長女に売って奥さんのキャシーも保育園長を退職し、2人で移り住んだキャビンに手を入れ、「そのうち立派なテューダー風にするつもりだ」と日曜大工用のエプロンをきちんと締めて、金槌を片手に意気込んでいた。その日はようやく出来あがった客室に泊めもらうことにし、ジョージがすぐ電話して、皆で近くのニルセン夫妻を訪ねることになった。キャビンの南前には自然のままの白樺が十数本ありその根本に花壇が配置され、玄関から湖の方に延びるドライヴェーを挟んで、キャシーの菜園が北隣の観光牧場との境界を流れる小川までのびていた。花壇と菜園の前のアスファルト舗装された湖畔道を挟んで彼らの白いビーチが広がり、古い木製の船着場が傾いて半沈んでいた。薄緑色のなめらかな湖面の沖に古代ローマ艦隊のように静かにならんで浮かぶ大きな白いペリカン達に見とれながら、その湖畔道を数軒南へ行くと、キャレンとアイヴィンのキャビンがあった。ふだんはお互いの子供や孫達がサリー市から訪ねて来て、助け合って、ムースやブラックベリー狩り、トラウトやサーモン釣り、冬にはアイス・フィッシングやクロスカントリー・スキー、スノーライド歩き、ATV遊びなどと、楽しくやっているようであった。



ニルセン夫妻のグリーン・レーク湖畔キャビンで、左から富美子、ジョージ、キャレン、キャシー、アイヴィン



皆で談笑していると、キャシーが、突然、彼女の実家アッカマン家の話を始めた。

「最近、アッカマン家の全米親睦会がカルガリ市であり、ディヴィッド・アッカマンがオランダから東海岸へ移住しておよそ 600 年になり、その間にアッカマンの子孫が 2000 人ほどになっている。彼が初めて住み着いた土地が売りに出たので、お金を出し合って買い上げて、そこにアッカマン博物館を作るつもりだ。」と言いました。

今まで、目前の試行錯誤の生活に追われつづけていた私達が、全く考えたことのない時空の話に突然直面した。およそ 600 年前とはメイフラワー号がアメリカ大陸に来た頃のことで、レオナルド・ダ・ヴィンチが生きていた頃、英国のイートン・カレッジ、イタリヤのピサ大学が創設された頃だと大方のことを思い巡らしながら、なぜかこの時、私は「はっ！」と息を呑んで、“600 年後の自分の子孫の姿”を想像せずにはいられなかった。

私達には現在 6 人の孫がいる。母親が日本人の孫娘達 3 人は 完全なバイリンガルの純粋の日本人だが、残りの孫息子 3 人はイタリー生まれのカナダ人とミックスで、180 センチの私や娘婿より長身である。本人達は生まれた時、蒙古斑があり、寿司やギョーザや納豆の好きな日本人のつもりだが、（当時、私達が懸命に英語を喋り、年に 1 人あたりおよそ 6000 時間は働いていたので、息子や娘に日本語を教える機会を持てなかつたため）娘婿共々日本語が全く出来ず、会話もメールも英語で、そもそも頭蓋骨の形が前後に長く、容姿は彫りが深く、色白で毛深く、歩き方も違う。

それでも身を分けた私達には一層可愛い孫達である。600 年後の『赤神家』の子孫が北米で自然な遺伝子授受・発現による進化をつづけながら、どのような姿で、2000 人になれるのか、想像の域を超えて、とてもないことに当惑しながら、暫し次のように思いを馳せた。

もし、私達のような 1 人の日本人の移民第 1 世が、祖国から祝福され期待されて諸外国へ出て行き、しっかりと将来の自分（民族）の子孫の繁栄を視野に入れ、それそれが少なくとも 1.5 人の子供をもうけ、祖国を想う家族の価値観を確立しているならば、およそ 600 年後のその 20 世、日系子孫が単純計算で 3000 人強にもなる可能性

が出てくる。もしそれが 2 人の子供ならば、およそ 100 万人の可能性となる。その 100 万の子孫には異人種の親戚が付いている事を忘れてはいけ無い。私はそれらの子孫を外国人として突き放さず親日系子孫（日本国の私設外交官）としたい。

< 人種間結婚（国際結婚？）の現実 >

私のメモアの読者には少しロジックを欠くように思えるかも知れないが、私には日本国が重国籍を容認し、もっと日本の若者男女が大量に北アメリカの人種（東洋＋西洋）の“るっぽ”へ乗り込んで来て良いのではないかと思う。数（ミックスを含む）が存在感を増し、“**英語の発言力**”と比例し人種間双方の理解が深まり、世代を超える遺伝子授受・発現による進化が必ずしも人種間の容姿の差を少なくし、引いては人種間双方の侮り・差別偏見を少なくし、血縁関係が両国間で広まり、日本人・日系人・ミックスの地位向上に寄与し、引いては日本の外交力又は日本民族の国際的な信頼度・民族力を高めると思う。

元々北米とヨーロッパ諸国は国民同士が血縁関係にあるが、しかし、北米と日本は戦争があり、無条件降伏し、戦争放棄を約束し、安保条約追従関係の友好国で、北米の日系人は戦争があって迫害を受けたため、日本国民との血縁関係は残念ながら中国・韓国（日本人と同じように職業選択の制限があった）に比べ半分以下と非常に少ないと言っている。よって、日系人の北米での**外交英語発言力**が他の東洋人に比べ、弱小になり、「慰安婦問題」「旧日本軍の南京事件」「三菱重工徴用工訴訟」などでもその影響が現れている。

現在、当然ながら、カナダにいる日系人 3 世達の 90% は差別・偏見・侮り回避のため日本人どうしを避け日本人以外と結婚しているそうだ。
(日系日本語社会からカナダ人英語社会へ)

また私は動物の外見出産率を対象に年に 3 千～1 万 5 千頭位の品種改良・出産率改善実験を 16 年ほど実践したぐらいで、人間の遺伝については全くの素人で、思い込みで、僭越極まるが 300 年ほど鎖国の経験のある島国にすむ日本人でも、DNA を調べると、既に東洋人（中国・韓国人など）の DNA が、本人がびっくりする程の割合で含まれていることがある。一方、対西洋人の DNA に



については、今まで一部少数の家族だけの認識に留められていたが、これからは“頭脳”はもちろん“容姿”がグローバルな価値観で人生社会活動、修学・就職・結婚出世、特に差別偏見・侮り等に大きく容易に作用しがちなことから、一般国民が広く国際的な多様な DNA の存在に着目し、又、自分の未来の子孫に広い遺伝子授受・発現の自然な機会を与えること出来ることに気づき、それを各々の責任において考慮するべき（出来る）時期が来ていると思える。西洋ではダーウィンならびにメンデルの頃から広く意識されてきたことだが、自発的に自分の子孫の繁栄のため、覚悟を決め決心し堂々と進化・変態（？）するべきだと考える。整形手術や染髪は不自然で、まだ8頭身は外科手術で作れないし、大規模な歯科矯正は大変だ。遺伝子抜きでは、人口増加は期待出来ないのでなかろうか。

仮に 600 年後の人類社会はどのようなものか、私には、全く想像できない。しかし、世代の更新について自然に起こる人種間の遺伝子の授受は止められ（規制でき）ない。私にはそれに目覚めた向上心のある大部分の人間集団が広く遺伝子授受・自然淘汰し、寛容・公平・勤勉・ポジティブ・献身的で、賢く、強く、容姿端麗で、健康になると思われる。その大部分の人間集団が誤解を避けるために出来るだけ同じ言葉を喋り、価値観を共有し、差別を出来るだけ合理的に無くし、出来るだけ一つにまとまらなければならない。地球が狭すぎて世界平和には群雄割拠では都合が悪い。

又、一部視野の限られた閉鎖的・利己的な自尊心の強過ぎる少数民族がかたくなに他民族との遺伝子授受を拒み、その純血？を守り、弱り、出産率が落ち、取り残されるかもしれない。

次に一般的に“移民”という言葉に抵抗を感じる人が多いだろう。しかし、これは“移住”で、私もこれを書き出して初めてはっきりと気がついたのだが、実は、これから日本の若い地球人達は、視野を広げ、日本国内での移民日系人に対する偏見「日本から逃げ出した奴らだ！」を捨て、世代を超える長い目で見て、“移民”という言葉の裏に隠された思いもよらぬ自分の“種としての未来”、“遺伝子授受・発現の司る無限の到達点”・“侮り・差別の少ない素晴らしい人類の未来”が潜んでいることを賢く身抜かねばならないと思う。

カナダ国の門戸は開かれている。**先輩日系カナダ人達が戦前・戦中・戦後・最近（1988 年カナダ首相～2013 年バンクーバー市議会）までかけて、耐えて苦しみ苦労して勝ち取った日本人・日系人に対する当然正当な職業選択の自由・大学での専門科目選択の自由・平等な人権・カナダ国の戦時対応策の悪行の認知・謝罪ならびに補償・完全なカナダの市民権を、後から続く日本人が正しく認識し、十分に活かさなくてはならない。**

世界各国から年間 30 万人プラスの、基準点以上の遺伝形質の優秀な移民達が受け入れられている。現在のところ、日本からは年間 1200～900 人（女性が多いそうだ）ぐらいだが、それが開かれているうちに、壮大なヴィジョンと意義に目覚め、未来に向けて実行する人が沢山いればいい。中国・韓国人の人達のように大量に来ればなお良い。

< 友好国との重国籍化 >

また、カナダも米国も元敵国人の日本人・日系人に対してすら、寛大で公平な重国籍の機会を認めている。

重国籍容認は、生物学的に広くて好ましい遺伝形質を持った種のミックスを元の国に自由に呼び戻すチャンスを増大すると思う。

本来は、友好国の外国籍を取れることはその日本人が国際レベルで有能な証してあるが、それが原因での国籍剥奪は 21 世紀の価値観で判断すると人道的に本末転倒で、国籍剥奪された者の足を引っ張り、その者に強烈な精神的打撃・疎遠感・他国者感・同窓生から仲間はずれ・親兄弟からの叱責・親戚から絶縁・罪悪感までも与え、そのミックス（子孫）の当然あるべき親日感情（私設外交官感覚）に打撃を与え、反日感情にも発展していく、日本に帰れば北米の国籍を失うので、移民ミックスの日本への自由な帰国・就職・北米への自由な帰国・両国間を股にかけた社会活動等を阻害し、日本人種の遺伝形質の向上・維持・進化の妨げになっていると思う。

又、移住者の中には国籍剥奪の恐怖のあまり、速やかにカナダの国籍が取れず、永住権の生活が日系日本語社会からカナダ人英語社会への移行を阻んでいて、自由な才能の發揮を阻害している。



国籍剥奪は、事情があつて他国籍を選択させられた日本人ある意味で日本の国際活動の最先端を行く有能な日本人闘士の日本国籍を剥奪し、その個人の生來の権利・言論の自由（国会陳情、選挙権・被選挙権等）をも剥奪し、日本国的情報収集能力の公正さを欠き、日本国民の他国民感情・根性等の判断に影響を及ぼしていると思う。

（私は日本の世論・日系日本語社会の世論に反して、日本の友達・本会員の伊丹君・彼の弟さん・同窓生等にトランプ大統領の当選を選挙の1年ほど前に予言出来た。）

日系日本語社会にも、当然の事ながら、既得権益が生まれ、その権益集団が横のつながりをつけ、情報支配・言論統制・個人情報侵害が起こらない事を望む。その狭い日系日本語社会に多大な公共性のある日本語の報道機関・経営者にもその力が及ばないように崇高で公平・公正・緻密な配慮が必要だと思う。

生物学的に日本の1国籍主義は両国間の往来に規制を掛け、日本からの遺伝子流出・頭脳流出を招き、カナダ・米国への国益に合い、将来の日本民族・日本国の国益、遺伝子・頭脳の相手国との共有を拒み、民族の健康・進化・繁栄・発展、並びに、人口増加・民族力・国の外交に予想外な重大な打撃を与えると思う。

同時に、1国籍主義を友好国との重国籍化をすることで、動物の異種交配の精神的効果並びに遺伝子レベルの基本から国民の出産率を上げる事が可能で、国民の人口増加に寄与すると思う。

< 遠い将来の地球人 >

私達の子孫が 600 年後にカナダで 2000 人（又は 100 万人）になったとして、日本（皇國）は果たして、子孫として認めてくれるだろうか？

もしや友好国との重国籍が可能になり、私達の子孫が進化して、顔立ちと体つきが変わってしまい、英語を喋っていても、ただの家系図だけの関係に留めず、東洋と西洋の重要な架け橋になり、日本との遺伝子授受・発現の往来を保ち続け、同胞意識を持ち続け、お互いに切磋琢磨し続けることができるだろうか？

それを日本国は寛容に公平に人道的に認めてくれるだろうか？～

私設外交力・国威拡大～**民族力**と受け止めてくれるだろうか？

移民は長い目で見て、両国にとって非常に大切な血縁姉妹国（血縁友好国）となる為の布石で、それを生かすも殺すも日本国（国民）のこれから のヴィジョン・包容力改善努力次第であると思われる。

又、友好国との重国籍化は、将来、日本人力・地球人のリーダーになるか、只の追従者止まりで終わるかどうかの本気度・度量が問われていると言ふことになると思う。また、遠い、遠い将来に行き着くであろう、1 地球人種の DNA の中の日本人の DNA の占める割合にも影響するであろうと思う。

600 年後までに、日本国・日本民族の文化も変化し、「よそ者」や「村八分」「むら外し」という野蛮な言葉や習慣もなくなり、教育制度も変わり、英語とのバイリンガルになり、英語のニュースも、洋画の鑑賞もサブタイトル無しで 100% 出来るようになり、東洋人・西洋人と共に日系人の出入りが盛んになり、日系人にも選挙権・被選挙権が可能になり、政治家や実業家・学者の通訳や翻訳機が要らなくなり、国民個人個人の国際的な活動もより正確・親密に深まり、子供・孫・曾孫を通して人種間で親戚を共有しあい、国境・人種を超えた親戚付き合いも増え、お互いの文化・民情も細部に渡り理解しあい、お互いの文化・価値観が正しく進化するだろうか？

お互いの宗教心も進化し、果たして頭脳・科学・技術の進化に比例して、我々人類の感情や心、人間性は共に十分成長して付いていくのだろうか？

その未来に果たして今のような国境が残っているだろうか？

いずれにしろ、その関係記録は親族として、大先輩オランダ（王国）系子孫キャシー達の親族を見習って大切にし、残し、活用し続けたいものだ。勇気を出してこのような大妄想を語るのも、何時の日か、武器を使わずに 1 地球 “1 地球人種” に融合・進化・変態するために、日本人の DNA も棄てたものではないように思えるからだ。そのためにする積極的な努力は、自分が死んでしまってからでも、私には意義があるように思えるからだ。



**3. 北康利氏の講演 「胆斗の人・太田垣士郎」
を聴いて
令和元年5月23日**
**チャーチル京都 幹事長
木津谷 文吾**

このたび、北康利氏の講演「胆斗の人・太田垣士郎」を聴いて、あらためて、太田垣士郎氏の人物像と、その偉業・黒四を偲びたいと思う。

私が関西電力に入社したのは昭和37年である。その翌年、昭和38年に黒四（クロヨン）は完成した。当時その旨の社内放送があったように思う。黒四の着工は昭和31年だから工事期間約8年に及ぶ大工事であった。

さて、まず、日本の電気事業を懐古してみると、日本の電気事業は、明治20（1978）年3月25日に、東京においてアーク灯が点灯されたことに始まる。この3月25日は、今でも電気記念日として祝賀されている。

その後、大正から昭和初期にかけて、電気の需要は増え続け、さまざまな電気事業者が切磋琢磨して発展していった。多い時期には、大小約200社もの事業者が存在したという。電気事業は「設備産業」といわれ固定資産のウエイトが極めて高い。だから、無秩序な競争による設備の重複投資が、お互いの経営を圧迫し、存亡をかけた血みどろの合戦状態が続いていた。

昭和初期には、大同電力、日本電力、東邦電力、東京電灯、宇治川電気の5大電力会社に集約されつつも、自治体や電鉄も電気事業に参入するなど、依然として需要の争奪合戦は激しく、特に大都市圏では熾烈であった。電力の鬼・松永安左工門（東邦電力）、福沢桃介（大同電力）ら電力界の傑物が、戦国武将の如く競い合った。当に電力の戦国時代だった。

戦時下の昭和16年になって、設備投資の無駄がないように一元化をはかるため、国策により日本の発送電設備をすべて1社にまとめた日本発送電会社を設立し、同時に、日本を9地域に分けて配電する9社の配電会社に整理統合された。

戦後になって、復興に当たって、電気を最も良

質、安定して、効率的、かつ、低廉に供給するには、如何にあるべきかが検討されたが、結局、GHQの意向により、巨大な日本発送電会社を解体し、発電、送変電、配電から需要まで、即ち、発電から販売までを一貫して担う電力会社を、国土を9地域に分けて9社設置することになり、昭和26（1961）年5月1日に、9電力会社（その後、沖縄を含め10電力会社）が発足した。この地域別供給責任体制は、生活や産業に不可欠な電気を責任を持って供給する体制として、日本の発展を支えてきた。この体制は、資本主義経済という自由競争社会に、社会主義的な計画経済の考えを持ち込んだユニークなものともいえる。それが結果して、復興の礎として、成功を収めたわけである。そして世界的にも注目されるところとなっていた。

ところが、現在は欧米に倣って、電力会社の地域単位の壁をなくし、かつ、誰でも電気事業に参画できる、いわゆる電気事業の自由化が行われている。が、しかし、これは、欧米において、必ずしもうまくいっているわけではない。近未来に、電気の質の劣化、大停電や料金値上げなどの弊害が出てこないか、少々気がかりである。

以上、搔いつまんで電気事業の変遷について述べたが、太田垣士郎氏は、昭和26年の9電力編成により新たに誕生した関西電力の初代社長として、阪急電鉄の社長から迎えられた。当時の日本は、戦後の苦境から漸く抜け出しつつあり、先進諸国に追いつけ、追い越せの復興ムードで盛り上がっていた。昭和30年になると、家庭に、白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機が3種の神器として普及はじめ、電気が生活必需品となり、産業界においても、電化、自動化が進んで、電気は社会に不可欠のものになっていた。しかしその大切な電気が不足して、しばしば停電する状態にあり、関西の復興のためには、安定した電気の供給が必要であった。当時の電源構成は「水主火従」で水力発電のウエイトが高く、国内で貯えるエネルギーとして、水力が脚光を浴びていた。

数々の発電適地の中でも、水量が豊富で急峻な黒部川は発電に最適であり、既に、前述の日本電力が昭和初期に高熱岩盤を掘削するという難工事の末、黒部川第三発電所まで開発していたが、その先はもう無理だという状況で、関西電力に引



き継がれたのだった。

太田垣土郎社長は、この未踏の地に着目し、社運をかけて巨大な発電所を建設することを決断したのだ。昭和30年のことだった。この大胆な決断は、関西の希望であり、かつ不安でもあったが、太田垣社長は、全責任を背負って先頭に立ち、会社全体を奮い立たせて、黒四建設に立ち向かった。曰く「100%の成功はない。70%成功の見込みがあれば、実行を決断する」と。

太田垣社長なくして黒四はない。この毅然不動たる決断こそが、黒四をはじめ、それと同時に建設された新黒三や新黒二に、既設の発電所を含めた、合計約90万kWに及ぶ黒部川”大発電地帯”を形成する端緒となったのである。

建設途中の最難関は、日本アルプスの直下を貫くトンネル（機材運搬ルートの「大町トンネル」）の掘削中に遭遇した「破碎帯」だ。「破碎帯」とは、瓦礫が水とともに流出して、トンネルを造ることができない状態の場所である。しかし、このルートが建設されなければ、大型の機材が運搬できず、黒四建設は断念、あるいは、大幅に遅れることになる。”胆の男”太田垣社長は、必ず突破できるとの信念のもと、英知を集めて対策し、遂に、水抜きトンネルとコンクリートミルの注入というアイデアで、これを乗り切った。

太田垣社長は、しばしば工事現場を訪れて激励し、気遣うとともに、熱い思いを直接伝えた。危険を伴う場所にも立ち入った。それを阻止しようとすれば「危険なことをさせているのは、この私なのだ」と振り切られたが、その拳動が現場第一線の工事を感動させ、大いに意気を奮い立たせた。また、この大工事にあたり、全社員に”クロヨンに手を貸そう”と呼びかけて、鉛筆1本、紙1枚にいたる僕約を指示し、全社の盛上りをはかった。

そして、工区を分けて、ゼネコン各社に分担させた。これによって、各社は自ずから競い合い、黒四工事により日本の土木建設技術は飛躍的に向上したとされる。

かくして、黒四は約8年余の歳月をかけて、昭和38年に完成した。堤長約500m、堤高約190mの巨大なドーム式アーチダム。そして全地下式の発電所や坑道。それは、太田垣社長の英断

なければ実現しなかったことである。数々の苦難もあったが、このプロジェクトは、大きな「男のロマン」といえる。一方、この工事で不幸にして亡くなられた御靈171の犠牲があったことを忘れてはならない。黒部ダムの傍らに慰靈碑が作られ弔われている。

黒部川の開発を始めとする電源開発によって、電力不足は解消され、家庭電化が進み、産業の発展に寄与し、日本の復興は急ピッチに進行した。そして、好景気になっていった。

太田垣会長〈社長は芦原義重に〉は、黒四完成の翌年、昭和39年に亡くなられた。葬祭の阿倍野斎場には、別れを悼み、惜しむ各界の参列者が後を絶たず続いていたことが、入社2年目の私の記憶に鮮明に残っている。そして、その15年後、関西電力に入社された太田垣土郎氏の孫の太田垣英士さんと一緒に仕事をする機会を持ったこと、および、私は京都支店長を、太田垣英士さんは神戸支店長を、入社年次に大きな開きがあるので就任時期にかなりの隔たりはあれども、それぞれ経験したこと、ご縁である。

関西電力の水力発電所は、今や、黒四を含めて全て無人で、遠隔制御の自動運転である。かつては、冬季に黒四の運転員は交代で合宿し、熊に出くわしたり、氷筈のウイスキーが美味しい、などさまざまな逸話を生んだものだが、それも過去の話になった。NHK紅白歌合戦で中島みゆきが激寒の黒部で「地上の星」を歌い、全国に実況中継されたことも思い出の一つである。

以上、北康利氏の講演や著書「胆斗の人・太田垣土郎」の中で取上げられたこと、いないこと、諸々を主観を交えて記述した次第である。

余談だが、太田垣土郎氏も私も豊高で学んだ。当リタイアメント情報センターにも豊高で学んだ人が多い。豊高は豊高でも、太田垣土郎氏は豊岡高校であり、我々は豊中高校であるが……。

太田垣土郎氏は生涯豊中に住み続けた。それは、「住むなら阪急沿線！」という出身の阪急電鉄への思いや、薰陶を受けた小林一三氏が池田に住み続けた影響があるのかもしれない。

以上、思いつくままに筆す。

（北康利氏の講演後の懇親会写真等は、
最終頁に掲載）



4. 喜寿を振り返って 【第一部】

会員 伊丹 淳一



【第一部】

1941年（昭和16年）9月9日生まれの私は、昨年9月77歳の喜寿を迎えたが、去る2012年（平成24年）1月に関西支部で「私の履歴書」などと大胆なテーマで講演したものを、中学校の同級生でもある関西支部長の阿賀敏雄さんから「りらいぶジャーナル」に投稿して貰いたいとの強い要望がありまして、僭越ながら内容を見直し投稿させて頂くことになりました。しかしながら7年前の内容であり、その後父も満106歳で他界するなど変化がありましたので、タイトルも「喜寿を振り返って」と題し、記憶をたどって掲載させて頂きますので数回に亘っての掲載になりますがご笑読頂ければ幸甚に存じます。

申し上げるまでもなく日経新聞の「私の履歴書」に名を連ねる著名人の様な華々しい履歴を持ちあわせている訳ではありませんが、古くから豊中市にお住まいの方には、私のことより父のことをご存じ頂いている方も多いと思い、父にまつわる話や、小生がこれまでの人生で出会った、話題に出来る個性の持ち主などをご紹介し、併せて自分がこれまで歩んできた人生のトピックスの一部を紹介させて頂きたいと思います。

関西支部で講演させて頂いた前年の2011年（平成23年）8月に母が満99歳で旅立ち、

その明けの1月に講演でご披露したことですが、平均年齢より随分長生きしてくれましたので喪中で寂しいお正月というイメージはなく、特別普段と変わったところは無かったものの元旦から「ビッグニュース」が舞い込んで参りました。

早速、父の話になりますが、父は母が亡くなった年の12月22日で満106歳の誕生日を迎え、弟が無理であろうことを承知の上で、10数年ぶりに「久し振りに麻雀しますか？」と尋ねたら「長い間 していないけれど、やってみる!!」というものですから、それこそ長い間お蔵入りになっていた全自动の麻雀台を引っ張り出して、半チャンを2回しましたところ父がダントツでトップ。気を良くしていたのでしょう。元旦にも再び麻雀をしたところ、なんと今度は九竹をつもり「國士無双」の役満を達成、またしてもダントツのトップ。しゃっちゅう麻雀をしている人でも、年に一度出来るかできないかという「國士無双」の役満をやってのける、そんな凄い父でした。



左写真は、伊丹会員の亡きお父上が國士無双を達成したときの笑顔写真

その4か月後の4月に106歳の天寿を全うし旅立ちましたが、亡くなる直前まで補聴器も無く耳は全く健常者と同様に正常で、自分でトイレにも行きますし、杖も持ったことがないという明治38年生まれの凄い人でした。

亡くなった4月19日の早朝に、トイレから帰って来て「ちょっと苦しい」と言ってベッドに倒れてそのまま帰らぬ人となった、その様な亡くなり方で旅立った人でした。

その前年に母が亡くなった後は、さすがに寂しそうな毎日でしたが、気持ちが若くユーモアがあ



って、切り替えも比較的旨く行っていたようですが、誕生日が過ぎた25日から26日にかけて、岡山から今治経由、高松を経て徳島の鳴門で一泊というドライブ旅行に出かけた時も、フランス料理のフルコースを平らげ、帰路ホテルを出た車の中で、「ここに来る人は、損をしないね」と言うので、何のことかと尋ねたら「得します（徳島す）」と言って大笑い。きっと母も呆れた人だと苦笑していること思います。

さて、私は1941年（昭和16年）9月9日、大阪府豊能郡小曾根村渡場、現在の豊中市豊南町で、父「啓次」母「コウ」の4人目の長男として誕生し、三人の姉と第一人の5人姉弟でございます。

父は最初から男の子が欲しかったようですが、最初に生まれた子供が女の子。この次こそと思っていたらまた女の子。三度目の正直ということで、今度は男の子に決まっていると言って、今の私の名前である「淳一」という名前まで決め込み、勤務先の大坂府庁の仲間たちに、前祝いと称してご馳走を振舞ったが、生まれてきた子はまた女の子。こうなったら男の子が生まれるまで何人でも生んでやる、と開き直ったらやっと男の子が出来て、事前に用意していた「淳一」という名前をつけて小生が育てられることになり、ホッとしたところで引き続いて弟が誕生して5人姉弟。

3番目の姉が3月3日の節句生まれ、小生が9月9日重陽の節句の生まれ、2番目の姉が12月12日生まれ、姉弟5人のうち3人がゾロメ生まれも珍しいかも知れません。それにしても期待が大きすぎると期待外れの子供が出来るものだと思っています。

実家は数百年続く旧家の庄屋で屋号は「伊丹屋」といい、国道176号線が出来た時、伊丹屋の土地の中を通って分断された「三和町」辺りから、服部緑地の寺内辺りに至る、今の神崎・刀根山線の周辺に散らばる土地で小作をお願いし、コメを作って頂いていました。

現在の服部緑地駅近くの山と言っても丘陵ですが、農地解放で2つの山を供出した時、1山1,000円だったということを何度も耳にしたことがありました。

父は先程触れました通り、1905年（明治3

8年）12月生まれ。関西大学法学部を卒業後、大阪府庁に入り都市計画課で勤務していましたが、戦後の混乱期、地元から市議会議員を出さないと市の予算が取れないと地元の人たちに担ぎ出されて、昭和22年市議会議員に転向、以来議長も務め16年間議員生活を送りました。その後も含め「青少年保護司」、「農業委員」、「公民館分団長」、「金蘭会学園理事長」、「全国賃貸住宅家主連合会会長」等々お金にならない、いわゆる人の世話ばかりしてきた人で、何とか収入が無くても食べていけたからこそ好きな世話役を引き受けていたのだと思います。

母は1912年（明治45年・大正元年）4月生まれで、大手前女学校を卒業後、大阪市内の砂糖問屋の生家から父のもとに嫁いで参りました。我が子や親族に対する愛情だけでなく、自分を犠牲にすることをいとわぬ愛情深い良妻賢母で、不動産管理も含め一切の家事をこなしてきた人で自慢の母でした。1933年（昭和8年）5月に父と結婚して以来、60年のダイヤモンド婚式、70年のプラチナ婚式を過ぎて78年の歳月、父を支え5人の子供を育て、私の祖母や結婚前の父の弟妹の世話をし、90歳近くまで自ら不動産管理をこなしてきた凄い人でした。

私が通った小学校は「豊南小学校」で、1年生の時は机が無く、畳の上にランドセルや木造りのミカン箱を置いて、その上にノートを載せての授業でしたが、ランドセルを持っている子供はほとんど居らず、靴を履いていない子供もいた時代で、頭に殺虫剤の粉（DDT）を撒かれた経験のある方もいらっしゃると思いますがそんな時代でした。授業とは名ばかりで、いなご採りや遊びに近いものばかりで、あまり勉強をしたという記憶がない中で、5~6年生にかけて理科を担当されていた「下村先生」が担任になってから、石鹼やラムネを作る実験が面白く、それが印象的だっただけの6年間でした。勿論、それは全員がそうであったわけではなく、私が余りにも遊び好きで勉強をしなかったただけのことであったことは言うまでもありません。

父はテニスとスキー、魚釣りやビリヤードなど、スポーツや遊びが大好きで、大阪市内の自営業のオーナー連中を集めて「近畿スキー同好会」を設



立。後の大阪府スキー連盟が設立される前から出来ていた伝統あるスキー同好会でした。私は父の血をしっかり引き継いだように思います。

最初にスキーに連れて行って貰ったのが昭和25年。元旦の夜行列車に乗って長野県の菅平スキー場や志賀高原、新潟の赤倉などにも毎年出かけ、5日の夜に帰阪するのですが、正月に重いスキーやリュックを背負って、わざわざ寒いところへ何しに行くのだ、という目で近所の人から見られていた時代でした。

何しろ志賀高原には「丸池」のゲレンデに進駐軍が遊ぶためのシングルリフトが一本あるだけで、スキーのためのバスなんて勿論ありませんし、子供の荷物を大人力してくれる訳でもなく、最寄りの駅からトボトボ1時間程歩かされて、民宿と言っても今の旅館の様な民宿ではなく、雪に閉ざされて何もすることが出来ない農家が、貸布団を用意して客を泊める本当の民宿でありまして、食べ物の好き嫌いを言ったらその日は何も食べるものが用意されない、味噌や醤油も自家製との様な有様でした。

当時は、日本人がスキーを始めた走りでしたから、「ドイツスキー」だと「オーストラリアスキー」だと、「フランススキー」といった具合に、毎年教えて貰う滑り方が違って戸惑ったものでしたが、全日本スキー連盟が出来た頃から現代に近いスキー術が定着し始め、1級から5級までの「バッジテスト」などが催されるようになりました。私は昭和38年に1級の資格を取りました。

昭和52年の2月でしたか、奥神鍋に会社の連中とスキーに出かけた時、小学校へ上がる前の我が子3人を連れて行ったのですが、1人は肩車、1人はおんぶ、もう一人は抱っこ、というスタイル?でゲレンデを滑っているところをニュースカメラに撮られ、翌朝のテレビニュースで放映されたらしく、数人から「今朝のニュースで君が映っていたよ」と言われまして、結構テレビというのは皆見ているものだなあ、まあそんな映像で良かったけれど、変な所へ行っているところを映されいたら大恥かくところだったと思ったものでした。

(次号【第二部】につづく)

5. 関西支部行事のお知らせ

(関西支部長 阿賀 敏雄)

関西支部では、以下の行事を予定しております。
皆様のご参加をお待ち申し上げております。

◆株式投資教室

講師：柏原 純松（新生投資クラブ代表）

毎月第3 土曜日 11:00～13:30

会場：ホテル・アイボリー

参加費：2700円（ランチ付き）

◆ベルウッド歌声喫茶

3ヶ月毎の第3木曜日開催

8月15日(木)、11月21日(木)

15:30～17:00 会場…ベルウッド

司会：岸本隆司 演奏：ピアノ 荒木あゆみ、
アコーディオン 比企野芳郎、ギター 植田元則、
クラリネット 大澤泰 参加費：1000円

◆ベルウッド CD の会

リーダー長岡壽男氏のご都合に合わせて開催

会場…ベルウッド 参加費：1000円

◆麻殖生健治氏の講演会

「徒然草を書いた兼好法師の交渉術」

7月10日(水) 14:00～15:30

会場：おかまち・きっと

参加費：500円

◆第7回リタメンゴルフ会

10月17日(木) 池田カンツリー俱楽部

幹事長：伊丹淳一

◆第6回講演会

「如何に人生100年時代を迎えるか」

講師：川島康生先生

（国立循環器病研究センター 名誉総長）

11月21日(木)

豊中市立文化芸術センター大ホール

参加費：2000円

（川島康生先生・講演会チラシは、最終頁に掲載）



<キョウヨウ・キョウイク・エイヨウ・
ショウショウで健康ライフ>

関西支部長 阿賀 敏雄

090-1896-4575

6. 東京地区行事のお知らせ (事務局)

◆東京地区 りらいぶゴルフ 2019秋

10月または11月にて開催予定
大宮国際カントリークラブ予定



◆東京地区 第7回りらいぶ落語会

2020年4月または5月開催予定
会場：お江戸日本橋亭
出演：桂 三若、他 チケット：2000円

お問い合わせ： 事務局・島村

080-9982-6237

メール：haruo_shimamura@hotmail.com
メール：menocasablanca@gmail.com

7. 令和の時代に臨むこと

ヤスコ Wild
会員 杉山 泰子

年号が令和に代わり、日本に新しい時代が訪れました。

今回は、天皇陛下の御崩御の後というわけではなくて、世代交代という意味での幕開けになり悲しい雰囲気が無くて良かったと思います。

私ごときが言うことではないかもしれませんのが、これからの大正家にとても期待していることがあります。

それは雅子さまの事です。

かつて美智子さまは二度も失語症になられました。

雅子さまも、心の病を患われました。
それはご自分自身を殺さないといけない場面が
多々あったからかもしれません。

そんな過酷な皇室の生活の中で、天皇陛下を助けられ、日本中のいたるところを訪れ災害などにあって失意の中にいる人たちを励ましてこられたりしてきました。

令和になって初めてのお仕事で、アメリカ大統領ご夫妻をお迎えになった時の雅子さまのご様子を見て、これから自由にのびのびと動けることが出来たら、御病気も治られるのではないかなど感じました。

お若い頃のはつらつさに、年輪を重ねられた落ち着きを備えられ、より素敵なお女性になられたと思います。

イギリスのダイアナ妃は生前、エイズの撲滅運動や地雷撤去のための運動をなさっていました。

けれど彼女も、拒食症と過食症にかかっていました。



そして人々の幸せを願っていたにもかかわらず、残念なことにご自身は不幸な道を歩まれることになりました。



女優のオードリー・ヘップバーンは、60歳を過ぎてから亡くなるまで南アフリカの子供たちを支援する活動に力を尽くされていました。

オードリーがかかわることで、当時、アメリカの南アフリカの食糧危機に対する援助金は二倍になったとのことです。

われらが黒柳徹子さんもユニセフの親善大使をなさっていますね。

徹子さんは、アフリカなど38か国もの国を回ってその現状を、世界に伝えられているそうです。



モナコのグレース・ケリー王妃は、普段、ご自分で運転をして街に買い物に行っていらしたそうです。



残念なことにご自分の運転していた車の事故で無くなられましたが、自由なお暮らしをなさっていたのだと思います。

雅子さまも、ご自分で買い物に行かれるのは無理かもしれません、日本も世界も変わってゆきます。



皇后陛下となられた今は、ご自分を大事になさって、その能力を世界に大きくはばたたせていただければ、これほどうれしいことはありません。

これを機会にお元気になられて、日本の素晴らしいところを世界中の人にアピールしてくださいり、世界中の国々と仲良く平和な世界を作つてゆくために、そのお力を発揮してください。

周りの人は、足を引っ張らないようにいたしましょう。

ダイアナ妃のお言葉「プリンセスも楽じゃない！」





8. 大盛会だったドールハウス展 佐藤幸子さんの名作ズラリ

R&I 顧問
会員 中野 寛成



本誌 No.30 (2月20日号) で既報の「佐藤幸子ドールハウス展2019」が5月15日から19日までの5日間、豊中市立文化芸術センターで開催されました。実に1500名近く多くの方々が鑑賞に訪れ、佐藤幸子さんのモットーである「心いやされるひとときを」過ごされました。
佐藤ファンの同窓会の様相もありました。

会場には佐藤幸子先生はじめ各教室の生徒さん達の作品も含め数十点がならび加えて制作途中の作品やそのプロセス解説もわかりやすく展示されました。その全てがアーティティーに富み精緻極まる手作りの力作・名作であり、作者ご本人の丁寧なご説明もあって途切れることなく訪れた人々の感嘆の声で会場が満たされました。

この展示会は、リタイアメント情報センターの仲間であった故佐藤宗熙君（佐藤幸子さんの夫君）の高校同期であった阿賀敏雄関西支部長や竹川忠徳理事長をはじめとする友人たちの肝煎りで開催されましたが、準備から開催期間中の広報・会場清掃まで献身的な努力をされた阿賀支部長と開催直前に急逝された杉浦国裕君の援助について特筆しておきたいと思います。

また、故佐藤宗熙君と幸子夫人共通の歌仲間であるベルウッドの皆さんのご協力に心から敬意を表したいと思います。

故佐藤宗熙君と故杉浦国裕君はきっと今ごろは黄泉の国で祝杯をあげていることでしょう。

最後にNPO法人リタイアメント情報センターの活動の一環として、素晴らしい作品群をご展示いただいた佐藤幸子様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。





9. 馬の補正で完走しました

会員 烏居 雄司

馬が変わりました

長距離耐久走のエンデュランス大会に出場する馬は長距離、長時間の走行に応えるために競技開始前に十分な体調確認をされます。競技可能な状態か、大会前日に獣医師の検査を受けます。今回は14項目が設定されていました。それらの中でよく話題にされるのは「心拍数」、「歩様」です。

「心拍数」は1分間の心臓拍数です。馬は運動をしていない状態で毎分40拍程度です。人は毎分60拍程なのでゆっくりした拍動です。馬の心拍数は、進行方向左前肢のつけ根あたりに聴診器を押しつけて数えます。太り気味の馬ではよく聞こえる場所を探すのに苦労します。数えるときは15秒間の拍動を4倍して1分間に換算します。



「歩様」は往復80mを速歩で曳き馬をして、馬の動きを観察します。馬の姿を後ろから見て、後肢の運びや尻の動きがリズミカルな左右対称で、戻ってくる馬の前肢の動きや頭の動きが不自然でなければA評価です。競技に参加する馬の体重は400から500kgほどですが、脚の具合が悪いと動きが不自然になり、左右のバランスが取れなくてシーソーの動きのようになります。

今回は騎乗する馬が変わりました。前回までの11歳牝馬から9歳牝馬になりました。日本スポーツホースと呼ばれる馬種で、サラブレッドと道産子の中間くらいの大きさです。前回と同様に元気な馬です。前日の獣医検査で心拍数は検査開始時毎分

60拍、往復80mの速歩の後が64拍でした。心拍数は毎分64拍以下を求められます。そして他の項目はすべてA評価でした。評価はA～Dの四段階で、A、B、C評価までは通過しますが、D評価だと失格して走ることができません。ですから、到着後の獣医検査にそなえて、走行中は余分な負荷を馬にかけないように、ゆっくり動かしたり、ゴール近くではクールダウンを意識して運動させたり、途中で水を飲ませたりします。区間ゴール後は20分以内に獣医検査を受けないと失格するので、心拍数を下げるために水をかけて馬体を冷やします。効果的に冷やすには、太い血管が比較的表面に通っている後肢のつけ根内側を水を含ませたスポンジを押し付けたり、背中に水をかけたりします。

走行距離80kmにエントリーしました

80kmの場合は30km、30km、20kmの3区間に分けて、各区間走行後に馬が次の区間を走行可能か獣医検査で判断します。検査が終わり、馬の健康状態が確認できると検査開始40分後が次の出発時間になります。最後の20km走行後も同じ項目、基準で馬の健康状態を検査します。ですから80km走行できても獣医検査を通過できずに完走に至らないまま失権(失格)ということもあります。走り終えて獣医検査を通過して初めて完走になりホッとできます。エンデュランスはタイムレースなので早く到着した順に着順が決まります。しかし、馬の健康状態に重きをおくので着順上位者のなかで最も馬の状態を良く保った騎乗者にベストコンディション(ベスコン)賞が与えられます。私の中ではこの賞が最も価値のある賞です。表彰式で騎手が盛大な拍手を受ける賞でもあります。

今回のコースで1区間の30kmは、出発から10km近辺の高地が大変になりそうです。馬の元気なうちは良いのですが、馬の気持ちがなえてくると運動が不活発になり、さらには止まってしまいます。一般に、馬の動きが悪いときは拍車で馬体を蹴ったり、ムチでたたいたりして動かします。しかし、エンデュランスでは拍車の装備、ムチの所持は禁止されています。そこで動きが悪いときは声をだす、ブーツでけるなどをします。それでも動かないときは馬をおりて、動きそうになるまで馬を引くこともあります。舗装されてない急な坂で馬を曳いたり、河の前で止まった馬を曳いて河に入って渡ったりすることもあります。2区間も高地の登り降りがあります。



3 区間は川沿いの直線が多く、距離も 20km と短いので 2 区間の高地を超えるのが重要だと予想しました。

体が左に傾きました

乗馬の競技で馬場や障害は競技時間が数分なので、騎乗者の姿勢の傾向や癖の影響は少ないまま競技終了を迎えます。しかし、エンデュランスは競技時間が長く、80km の場合は 8 時間ほどかかります。そこで短時間では気づきにくい癖の影響が大きくなります。

2017春季北海道エンデュランスマ術大会



私の場合は騎乗姿勢が進行方向の左に傾く傾向があります。左に傾くと左脚に重心があるので、左のアブミを強く踏むことになります。騎乗している本人は意識が薄いのですが、右より左アブミの踏みが強いので、鞍が左に傾いてきます。エンデュランスは馬場や障害の鞍に比べて長時間の運動をさせるため、腹帯の締めは緩めにしています。左に傾いた鞍を右に戻しても無意識のうちに左アブミを強く踏むので鞍が傾くという繰り返しになりました。1 区間走行後の獣医検査で心拍数は毎分 48 拍、往復 80m の速歩後も毎分 48 拍、その他の項目もすべて A 評価という素晴らしい出だしでした。

2 区間の走行に入り、残り 6km くらいから左脚に力が入らなくなり、左に傾いた姿勢を真っすぐに直せなくなっていました。鞍の傾きを十分に直せず、体の傾きも戻せず、アブミに力が入らないままゴールに向かいました。この姿勢だと鞍に尻の右側があたることになり主に座骨の右で上半身を支えるので、鞍と擦れて痛い状態になりました。幸いに平坦な道の走行なので落馬することなく 2 区間の走行を終えました。獣医検査では、心拍数は毎分 48 拍、往復 80m の速歩後も毎分 60 拍でしたが、歩様が B 評価になりました。これはおそらく私の騎乗のアンバランスを馬が補正しようと不自然な運動をしている結果だと思い、残り 20km で更に悪化させないようにと思いました。

3 区間は登り下りの少ないコースです。姿勢が左に傾いていたので無理やり右に傾く姿勢をとり、鞍に座る位置を強いて鞍の右に座りながら走行しました。自分が垂直に真っすぐ支えていると考える姿勢は明らかに左に傾いているようで、後続する選手に指摘され、自分の平衡感覚は脇に置いてひたすら右に傾き、鞍の右に座って最後の 20km を走りました。獣医検査を受けると心拍数は毎分 52 拍、往復 80m の速歩後も 52 拍で馬は元気そのものでした。しかし、他の項目では「歩様」が C 評価でした。私のアンバランスな騎乗を馬が補ってくれた結果だろうと思いました。もしも「歩様」が D 評価だったら失格して完走できませんでした。馬の頑張りのおかけです。

部分的にひどい体の痛みでした

今回も馬のおかげで完走できましたが、体の痛みが部分的に偏っていました。体全体が疲労で痛むのではなく、強く痛む部分がはっきりしていました。左のつま先を上げ下げする筋肉と左肩を上げる筋肉です。そして、尻の右を擦りむきました。

獣医検査後に獣医師に「歩様」 C 評価の内容を尋ねると「馬が左前肢を踏むときに頭を大きく上下に振り、これは左前肢を痛めたと思われたので C 評価にした」と説明されました。

頑張って持ちこたえてくれた馬に感謝しています。



10. 関西支部 行事関連写真&行事チラシ



上写真は、北康利氏の講演
**「胆斗の人・太田垣土郎」の講演風景、
 講演後の記念写真、懇親会の風景等**

右の行事チラシは、関西支部行事
11月21日(木)
豊中市立文化芸術センター大ホール 開催予定
川島康生先生 講演会
「如何に人生100年時代を迎えるか」
のチラシ表裏の情報

『如何に人生100年時代を迎えるか』 講師 川島康生(かわしまやすなる)先生

国立循環器病研究センター名誉総長

大阪大学名誉教授

日本医師会医学賞

勲二等旭日重光賞

大阪文化賞

文化功労者顕彰



日時 2019年11月21日(木)

会場 豊中市立文化芸術センター 大ホール

豊中市曾根東町3-7-2 tel 06-6864-3901

開場 14:00 開演 14:30 終了 16:00



チケット(2,000円)のお求めは

ベルウッド 06-6840-0606

国際交流の会とよなか 06-6840-1014

阿賀 敏雄 090-1896-4575

越智 克司 090-6053-0029

廣瀬 純 090-3723-0961

主催 NPO法人リタイアメント情報センター

理事長 竹川忠徳 顧問 中野寛成 関西支部長 阿賀敏雄

後援 豊姫会

design kenichi.ishio

川島康生さんのこと

私たちの頃は阪大同級生に旧制豊中中学出身者が数十人いて専門が分かれてもいたいがいの講義なら必ずノートを貸し借りできるという仲間がいた。学部は異なつても同じ学内に何とか助り合える存在であったが、臨床医であった彼にはお世話になるばかりでお役にたつことは稀だた。今日は彼からどんなことが教えてもらえるだろうかと、たいへん楽しみにしている。

佐田健二さん(元原子力安全委員会委員長代理・大阪大学名誉教授)

後輩12期生からのメッセージ

川島先生は「手術の川島」といわれる少児疾患に対する数多くの新しい手術を世界に先駆けて発表されるなど日本一の心臓外科医であります。2007年には文化功労者として顕彰されておられます。他方、私の勤務先で読売テレビでは番組審議会委員を永年お勤めいただき放送文化向上のためのご指導をしていただいている。今日はドキドキして「心臓」のお話を聞かせていただきますよう。越智常雄さん(讀賣テレビ放送株式会社 顧問)

私の最初の赴任先が府立豊中高校で生物を担当しました。その後教育委員会を経て武庫川女子大学に奉職し、副学長として生活環境学部、健康・スポーツ学部、看護学部の設置に参画して医療、健康分野で活躍できる女子学生育成に力をそそいでまいりました。本学は今年創立80周年を迎えます。このたびの『如何に人生100年時代を迎えるか』はまさに時節に叶ったもので川島先生の講演を楽しんでいます。皆さんの健康長寿を願っております。

今安達也さん(武庫川女子大学理事)

私は大阪大学医学部卒業後、第一外科の研修医として先生にお世話になりました。当時40代の先生は心臓外科を力強く牽引し、近づき難いオーラが漂う雲の上の先生でしたが、気さくに声をかけてくださいました。心臓移植に対する卓越した見解と情熱は数多くの御著が物語っています。先生は2012年大阪大学外科学系講座同窓会の新たな発足に際して各講座の統合・再編に貢献されました。いろいろな場で得難い経験を積み重ねられた先生の御講演は大変楽しみです。

島野高志さん(元 市立豊中病院院長)

川島先生には、実兄の病気を救っていただきまして言葉につせない恩を感じています。命の恩人である川島先生のところへ何をさておいてもさせていただけます。このたびのご講演『如何に人生100年時代を迎えるか』はわたしもつとてまことに渡りに船の内容でお話を伺える日を待ちしています。どうか川島先生もお元気を保ち100歳をめざして先頭になって私たちをお導きくださいますようお願い申し上げます。

中井梅雄さん(中井エンジニアリング株式会社 取締役副会長)

川島先生が名譽総長をされている循環器病センターで私はボランティアをしています。難い手術で助かった子ども達や無事心臓移植を終えられた患者様、そのご家族をお話をする機会も多いのですが、無数の笑顔が先生のご尽力の上にあること、移植により新たな場所で命が芽吹くことの重さに何度も感動致します。以前に拝聴したご講演での感動が忘れられません。今日もう一度そのチャンスを頂けますことに深く感謝致します。

前田妙子さん(『朝陽いっぽいのありがとう』著者)

発行：特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター（R&I）

〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-14 芝栄太樓ビル4F VIPシステム内

●TEL 03-5733-2311 FAX 03-5733-3532

●E-mail : haruo_shimamura@hotmail.com HP : <http://retire-info.org/>

(発行責任者) 事務局 島村 晴雄